

【演 題】

『インプラント治療の歴史、注意すべき局所解剖について』

『口腔インプラント治療において歯科技工士に必要な基礎知識』

歯科医師 諏訪 裕彦

(京都府長岡京市 諏訪歯科診療所 院長)

【抄 録】

インプラントを利用した歯科治療はわが国のみならず世界中で普及し、人類の口腔機能の維持や健康に貢献している。

インプラント治療を希望する患者が歯科医院を受診した際に歯科医師はその主訴を解決するために必要な口腔内の診査、診断を行い、治療計画を立案する。本来、治療計画は歯科医師の仕事であるが、近年の急速なデジタル化が進展する中で、多岐にわたるデジタルワークフローの応用が必要となるため、歯科技工士との連携が重要である。治療計画の中でどのようにデジタル技術を活用して行くかを一緒に考えてくれる歯科技工士ほど貴重な存在はない。

この流れはインプラント治療のみならず、一般的な歯冠補綴物の作製やライナーを用いた矯正治療、義歯作製等の多岐の分野においても同様で、歯科技工士が歯科医師に対して、より積極的なアドバイスを行うことが必要となる。

歯科技工士の働き方改革への対応や需給問題等の影響で、歯科技工においてデジタル技術の活用は目覚ましいものとなってきている。

しかし、歯科医院においてはデジタル技術の保険導入への遅延や初期投資の増加への懸念、既存のワークフローからの脱却への抵抗によって、歯科治療の中の一部の保険外治療への活用に留まっている。

今回の講演では最近はやりのデジタル技術の紹介はパイオニアの先生にお任せをして、より基本的な歯科技工士と治療計画を考える際に必要な基礎知識の復習を行いたい。

インプラント治療の歴史、基本的な解剖学的な知識、インプラント埋入のためのシュミレーションソフトの活用法、ライナー作製のための基礎知識、インプラント治療の問題点、インプラント代替治療、近年増加している口腔疾患等のトピックスに関して基礎的知識の習得に役立てていただければと思います。